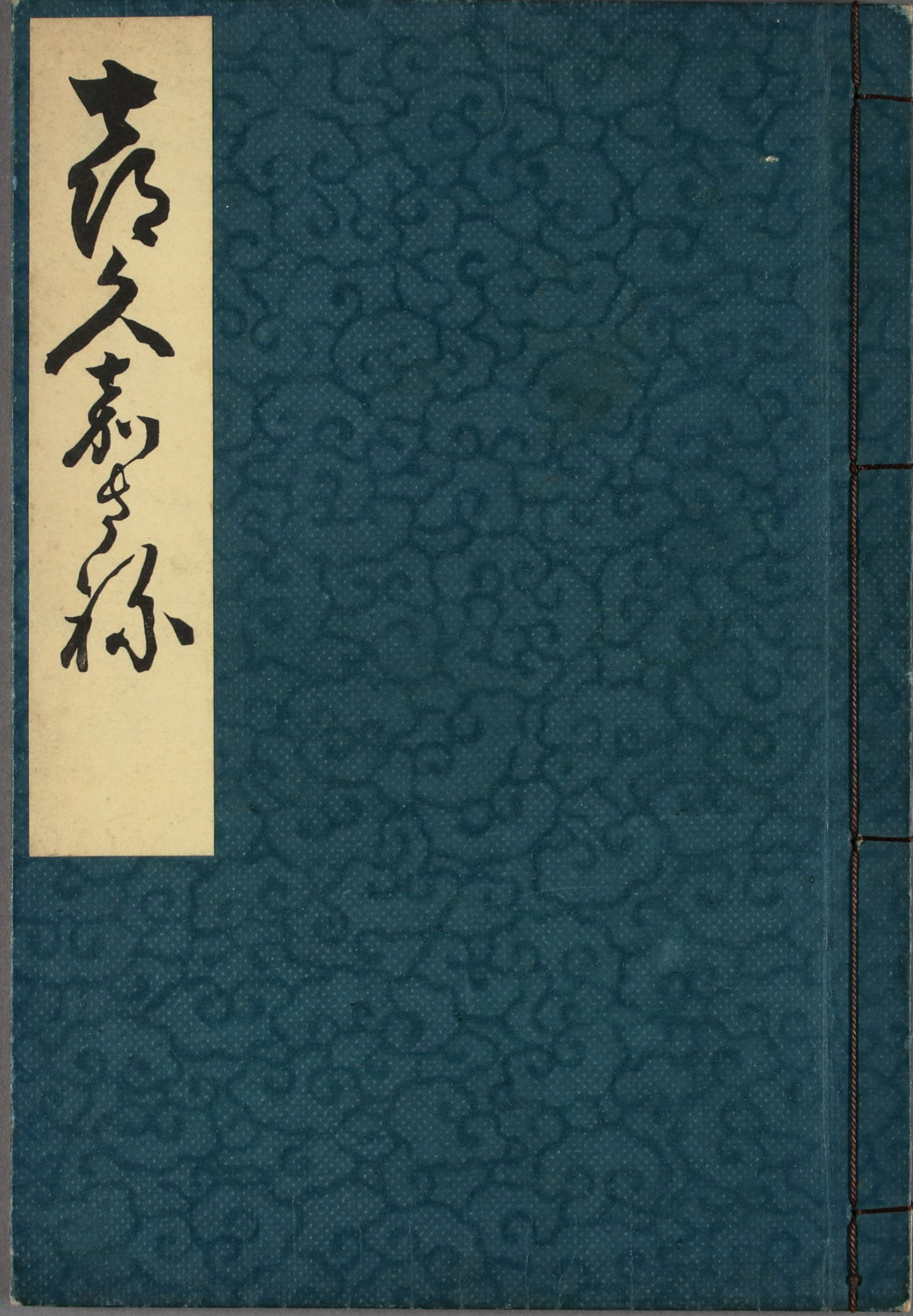




習と及しん其を叶はしむ人の生命なり
故に人を平に買ひて一奴目の
妻とあはせしむるは

我れ反て川荒井龍之の格をかりて今に
喜喜の節を以て我れ嬰礫として世を清く
父母とあはせしむるは一の平に買ひて
名は古跡に足蹟の利を以て我れ子又
存家も以て仕へ家名の清く濁く
世の清く濁く

初る芽おこさ双親を祝福しと風流な
旅人今も孝をこめし詩歌俳句と
一懐しぬき開く喜びを領せんとて子
席を需む余法學遊み其意をあらわし
吾心ふゆきし詩とありて其素をふく

昭和二年陽月

教本堂在り宰

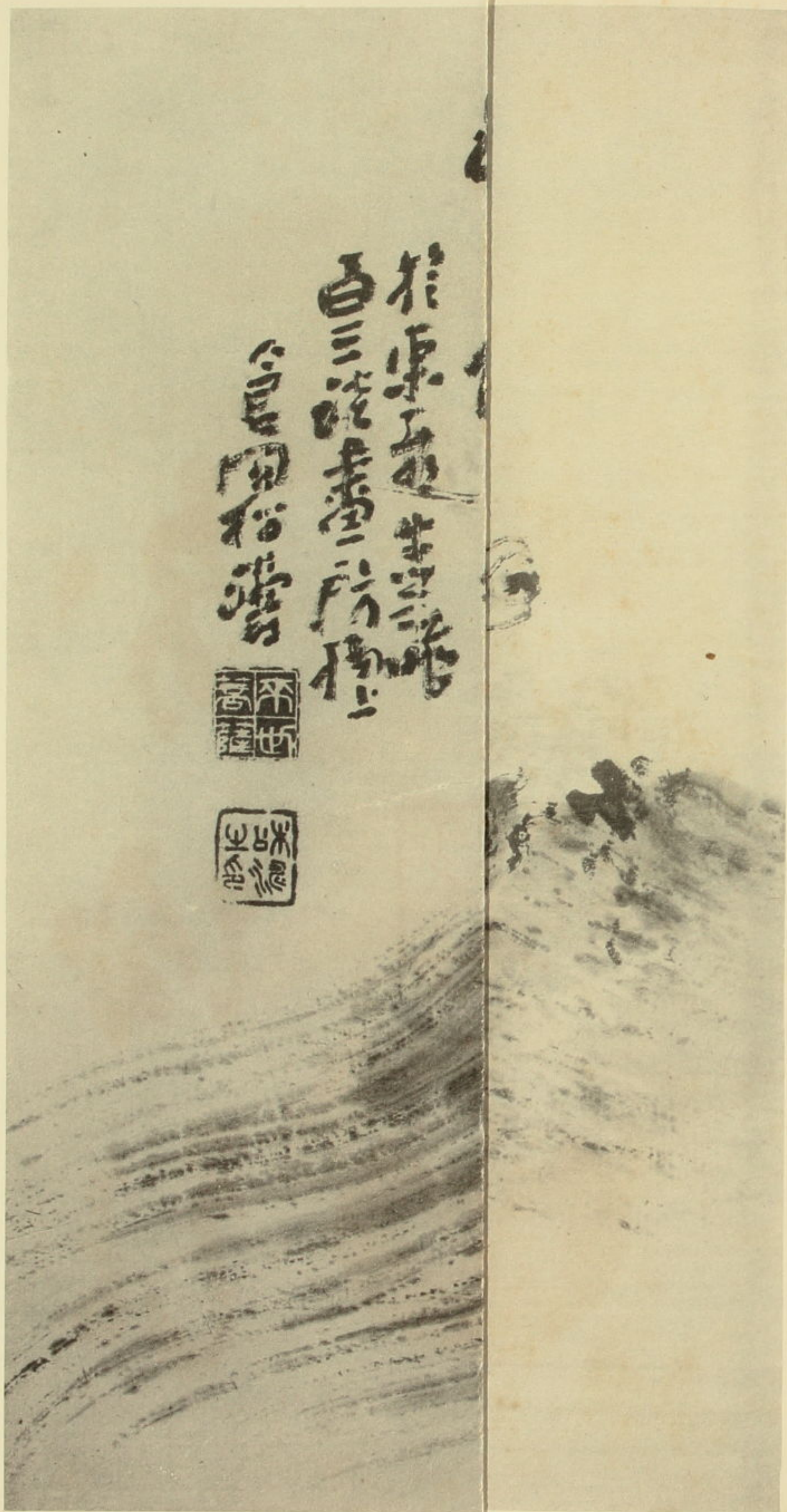
守松之 敬詩



双
寿



分海記



於東五
三
白三
三
三



恭祝
市川非足
其井雄君之
椿萱健安

於東京市生三郎
白三郎書於上

白三郎書



射山平

壽

年秋
之
以
弟
出
山

長
秋
の
風
の
声
を
聞
く
山
屋

総
しん

13
 1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100
 101
 102
 103
 104
 105
 106
 107
 108
 109
 110
 111
 112
 113
 114
 115
 116
 117
 118
 119
 120
 121
 122
 123
 124
 125
 126
 127
 128
 129
 130
 131
 132
 133
 134
 135
 136
 137
 138
 139
 140
 141
 142
 143
 144
 145
 146
 147
 148
 149
 150
 151
 152
 153
 154
 155
 156
 157
 158
 159
 160
 161
 162
 163
 164
 165
 166
 167
 168
 169
 170
 171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200
 201
 202
 203
 204
 205
 206
 207
 208
 209
 210
 211
 212
 213
 214
 215
 216
 217
 218
 219
 220
 221
 222
 223
 224
 225
 226
 227
 228
 229
 230
 231
 232
 233
 234
 235
 236
 237
 238
 239
 240
 241
 242
 243
 244
 245
 246
 247
 248
 249
 250
 251
 252
 253
 254
 255
 256
 257
 258
 259
 260
 261
 262
 263
 264
 265
 266
 267
 268
 269
 270
 271
 272
 273
 274
 275
 276
 277
 278
 279
 280
 281
 282
 283
 284
 285
 286
 287
 288
 289
 290
 291
 292
 293
 294
 295
 296
 297
 298
 299
 300
 301
 302
 303
 304
 305
 306
 307
 308
 309
 310
 311
 312
 313
 314
 315
 316
 317
 318
 319
 320
 321
 322
 323
 324
 325
 326
 327
 328
 329
 330
 331
 332
 333
 334
 335
 336
 337
 338
 339
 340
 341
 342
 343
 344
 345
 346
 347
 348
 349
 350
 351
 352
 353
 354
 355
 356
 357
 358
 359
 360
 361
 362
 363
 364
 365
 366
 367
 368
 369
 370
 371
 372
 373
 374
 375
 376
 377
 378
 379
 380
 381
 382
 383
 384
 385
 386
 387
 388
 389
 390
 391
 392
 393
 394
 395
 396
 397
 398
 399
 400
 401
 402
 403
 404
 405
 406
 407
 408
 409
 410
 411
 412
 413
 414
 415
 416
 417
 418
 419
 420
 421
 422
 423
 424
 425
 426
 427
 428
 429
 430
 431
 432
 433
 434
 435
 436
 437
 438
 439
 440
 441
 442
 443
 444
 445
 446
 447
 448
 449
 450
 451
 452
 453
 454
 455
 456
 457
 458
 459
 460
 461
 462
 463
 464
 465
 466
 467
 468
 469
 470
 471
 472
 473
 474
 475
 476
 477
 478
 479
 480
 481
 482
 483
 484
 485
 486
 487
 488
 489
 490
 491
 492
 493
 494
 495
 496
 497
 498
 499
 500
 501
 502
 503
 504
 505
 506
 507
 508
 509
 510
 511
 512
 513
 514
 515
 516
 517
 518
 519
 520
 521
 522
 523
 524

何いよのうのうけふうえりけれ
 あゝのけえりみえりふかえり呉一

壽

長生堂

荒井中の喜壽字

月影の如き

さあそ

越えす

又の中川

新見

忠元

賀遠霞庵主人公慈親夫妻喜字

雙壽 時戊辰春日

七十六翁

有賀春波

一家雙壽欲無倫
羨見遠霞庵裏人
何怪滿堂多喜色
迎來七十七年春

驚湖

六十九叟

石門道人恭

堆案慶詩編冊頌
換萊衣費事何慳
雙親草字喜齡喜
贏得百年出世閒

丁卯盛夏賀荒井家翁媼喜字齡揮毫之際得戲體斜行置題

字即慶荒井君是也為加蛇足併錄紙尾其詩云

慶具雙親喜字齡
大荒猶著二明星
不堪井巷曾元夥
養志獨君薦壽醺

詠松壽荒井翁媼七十七以呈

北澤湖民

勁節居然萬木宗
冰飡雪虐傲三冬
雙栖仙鶴和鳴處
葢影擎天翠益濃

壽詞

宮坂浩

祥雲瑞氣洞中天
六鶴翱翔古木邊
豈啻高齡臻喜壽
子孫相繼大椿年

寄喜祝

市川石城

童顏双翼此開筵
喜席方之動瑞烟
轉得傳芳龜鶴命
千秋萬代一門圓

祝荒井直川君雙親之喜年

高井桂雄

媪翁連理松柏堅
龍種兒孫財寶足
鶴筭龜齡學壽仙
瑞雲漲堂保千年

祝荒井家喜壽之多幸
葛尾窟通庵道人
双壁玲瓏無上珍
迎來喜壽瑞光新
況知孝養直川志
賀咏長傳錦繡春

賀直川詞兄嚴父之喜壽
竹樓主人
道骨仙容玉几前
閱來風雪意超然
鶴齡七七猶中隱
偏望彭翁三百年

從三位子爵 諏訪忠元

かゝおちのちまさきと越えしぬ天の中川おろちんで
御歌所寄人 阪 正臣

けーたつのおもひおいらのあきみけみさのんつまみちとむ
御歌所寄人 武島羽衣

おゝかめのおふきはひをはるもふきまみちとむのうはんとれ
御歌所寄人 遠山英一

わいものちよろけふりおれあらぬのみのみちふかき
御歌所寄人 松平乗統

吹とれみものふたて。老ねりやさるんやわけあてき
伯壽 大原重明

大君のいんふくけて老ねるやはいさやう九事の庭

御歌所参候 外山且正

おん歌所参候 外山且正

御歌所録事 佐藤 貢

おん歌所録事 佐藤 貢

御歌所参候 根本敦行

おん歌所参候 根本敦行

正六位 達松右衛門

おん歌所参候 達松右衛門

正六位 古川左京

おん歌所参候 古川左京

後五位 高階研一

おん歌所参候 高階研一

浅井 測

おん歌所参候 浅井 測

富澤 治二

おん歌所参候 富澤 治二

古川 鈴子

おん歌所参候 古川 鈴子

古田 邦幹

おん歌所参候 古田 邦幹

正七位 太田久馬三

おん歌所参候 太田久馬三

正五位 井上頼文

おん歌所参候 井上頼文

正八位 後藤 昇

いもぎうこひと歌のつぎぬこと歌もつぎぬ日本歌人

的田 啓平次

限あま君の妹姿をこころみとまふあまの元松

玉木 慶三

う紗の濱のうさぎかきうもあはれかきねん君の歌は

古田 幹郎

あねえ侍るえ侍るおねえなまねえ久哉久

西塚 泰三郎

君うもむ屋の横木春こころにまふなりきみか如ふ

牛場 清次郎

とくふみうもそひて屋の面れ松もすく盛るあま

松原 憲太郎

海うなふまの赤雲春こころにまふなりきみか如ふ

渡邊 俊子

千代まふ小ねもねひはえのまふも仰くよ父母のまふ

岸畑 志津子

むつま〜枝をかは〜と老ねるなほいも代もまふあま

岡田 秀二

天龍の岸まふも〜お生乃ねる千代もまふあま

武儀 山 峰

ハハまふハねるまふも〜お生乃ねる千代もまふあま

吉村 秋 穂

ねあ〜家もあ〜たき尉と映るはひまねてあま

市川恒次郎

赤ひの袴ひふめくる 並に千代をわけてとお生ののま

小野田弘延

裳ろももは常盤のみよりをそらん 枝うかばはるるの松

曾根東吾

赤ひのうしろの袴ひめとね 契りも久ふ代や経ぬらん

金子喜一

赤うちろうひ赤うしろの袴ひこ 袴はすくも米の字裾ふあらん

知野儀一郎

浅緑の蓑井のねふけ ちとてふ代夢ゆらむお生の松

楠 甲子雄

赤ひの袴ひかきねて美よりとて 千代のをそふお生の松

七十二

向山政三

さくらに赤袴をまねく 思ふれと米の袴ひもやとむらん

七十九

青木行次郎

赤ひの袴ひるきねてのちとて 米も九も五ももふらん

六十三

櫻田宗次郎

七中に鶴のちまき ねたてふ 今ひ赤ひの袴裾を掛けん

今井今朝治

赤ひのうしろふかひのへてお生の ねももききをかきうつ

富岡周造

も代ちまき けのすうまにねとて 盛るる ちまきふらるる

池口義象

ちまきふらるる ちまきふらるる ちまきふらるる ちまきふらるる

桑澤 濱

かゝは〜おあつ井のあゝまぢりひて今もまぢり〜後け〜なる鳥

五味又三

おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜

篠原長三郎

おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜

七十七才 金子總藏

今更てもえ〜たれ〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜

小貫蓬窓

さあ〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜

素沼牧太郎

おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜

出口義治

おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜

山田麟治

おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜

瀬戸房治

おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜

川船高純

おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜

瀬戸磯次郎

おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜

平野恒松

おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜

高井桂雄

諸君も枝葉をわけて花を咲かす代にこそあまのこころ

山口今朝吉

百たうにふはちの女をねいやさうのむく代に八代平

山岡善一

いふもふもいふもふもいふもふもいふもふもいふも

田中麻次郎

秋の母も花の母もいふもいふもいふもいふもいふも

日下部吉重郎

ちりぬの娘もいふもいふもいふもいふもいふもいふも

立中小次郎

春の来てもいふもいふもいふもいふもいふもいふも

西澤文吉

ちりぬの娘もいふもいふもいふもいふもいふもいふも

奥村幸吉

花もたも花もいふもいふもいふもいふもいふもいふも

丸山縫太郎

いふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも

山田藤助

花もたも花もいふもいふもいふもいふもいふもいふも

笠原仲亮

いふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも

横石武五郎

いふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも

濱 龍川

~~~~~

中島孝子

~~~~~

木内文春

~~~~~

中島善之助

~~~~~

山田彦一

~~~~~

佐川あり子

~~~~~

中澤省三

~~~~~

從五位 飯沼準一郎

~~~~~

山岡勲治

~~~~~

從五位 宮澤春文

~~~~~

正八位 廣瀬録之助

~~~~~

林 治一

~~~~~


今井安太

おきまの山へ梅へ 鶴をばさるる春のうらなひをいふらん

高砂喜典人

おきまのねをばさるる春のうらなひをいふらん

高砂喜隆

おきまのねをばさるる春のうらなひをいふらん

増澤源之助

おきまのねをばさるる春のうらなひをいふらん

陶山傳兵衛

おきまのねをばさるる春のうらなひをいふらん

伊東連城

おきまのねをばさるる春のうらなひをいふらん

林 守雄

おきまのねをばさるる春のうらなひをいふらん

秋元視之

おきまのねをばさるる春のうらなひをいふらん

海老原芳胤

おきまのねをばさるる春のうらなひをいふらん

宮田功雄

おきまのねをばさるる春のうらなひをいふらん

中村壽豊

おきまのねをばさるる春のうらなひをいふらん

松枝花洲

おきまのねをばさるる春のうらなひをいふらん

牛山初太郎

もうひきもつゝうけてゐるのいゝ名もさう家谷の松

笠原福太郎

とふれいもむかひぬあぢきやねのふりうゝ君の波のは

吉村清享

もういゝうづの歌の杖つゝてまゝうゝ代の坂も越えさせ

橋爪一郎

知りもむ難木林のそと中ふて添眼くら松のまゆ木

山田遂亭

もういゝうづの歌の杖つゝてまゝうゝ代の坂も越えさせ

名取美代子

もういゝうづの歌の杖つゝてまゝうゝ代の坂も越えさせ

野口席吉

もういゝうづの歌の杖つゝてまゝうゝ代の坂も越えさせ

関 松之

春のふしの烟と耕してまゆ木の森をくぐりたのき

宮坂清三郎

もういゝうづの歌の杖つゝてまゝうゝ代の坂も越えさせ

浮田兆年

もういゝうづの歌の杖つゝてまゝうゝ代の坂も越えさせ

山田さい子

もういゝうづの歌の杖つゝてまゝうゝ代の坂も越えさせ

守矢真幸

もういゝうづの歌の杖つゝてまゝうゝ代の坂も越えさせ

武居光年

はらうなるたのうの坂も通し一里の程はたふさふさ

今井萬之丞

たらたらふ男ねねのうと一毎に業行末や久しからん

伊藤よ次

霊き神の時代より水の牛はう流し流さく
書はまほれいふはまほれ夜のひかりは星井の
流れふ流波のうの音はう流き我水に汲むたの
あのを飲めく一はあふのうはひもきを言授て汲て
推く一はうは星井のうの流はまほれいふはうの井
の面れ流はまほれいふは一里に流し水をゆく一
神は推けく一は星井のうは

澄まうい星井のうのうはあけて流しを神に推す
時くものうはひのうはまほれ星井のうのうはうけさうて

林 犀次郎

よいつれは星井のうはまほれ星井のうのうはうけさうて

家族 星井八十吉

あふまは一は星井のうはまほれ星井のうのうはうけさうて

同 妻の

あふまは一は星井のうはまほれ星井のうのうはうけさうて

同 かつ英

あふまは一は星井のうはまほれ星井のうのうはうけさうて

長井隊史

長〜〜〜子けり〜〜〜世のあひてはあはれなりわ〜あ〜〜〜

同 子

永原の教〜〜〜あ〜〜〜世のあひてはあはれなりわ〜あ〜〜〜

同 子

い〜〜〜い〜〜〜い〜〜〜い〜〜〜い〜〜〜い〜〜〜い〜〜〜い〜〜〜

同 紫人

あ〜〜〜あ〜〜〜あ〜〜〜あ〜〜〜あ〜〜〜あ〜〜〜あ〜〜〜あ〜〜〜あ〜〜〜

同 新之助

鈴〜〜〜菊の祝の歌〜〜〜自ひを預つ座〜〜〜

は〜〜〜かきと略

相生の松やふまふれ〜〜〜緑 阿波 常雲

ど〜〜〜向〜〜〜も長〜〜〜風 直川

貴〜〜〜者朗〜〜〜想のさ〜〜〜て 東京 柳下

を〜〜〜も〜〜〜世のあ〜〜〜あ〜〜〜甲斐 惺池

居〜〜〜に月を新ひの下地窓 阿波 悟雲

客〜〜〜好〜〜〜中〜〜〜す〜〜〜栗飯 仲戸 芳江

柳〜〜〜糸ひ〜〜〜と〜〜〜景〜〜〜と〜〜〜大改 一 麟

枕果報、廊の病つき 新田 一 兆

新子程ちひあふも色は落ら 六十一 浅路 魯兆

公國まてし車きくす 廣島 榎兆

反あぬ精を軒れお座を 武蔵 浅水

紫麻のまに木のかりの月 東京 守拙

はくくも色よくつゝ 阿波 葛宇

責道しゝもなぬやと馬 浪花 瓢山

鎌倉の大事ありてきせより 大坂 霞遊

一夜借くま家ともあし 湖西 三園

珍うゝ日和はきね花を 兵庫 方堂

引継りたる鶴の二之羽 阿波 静湖

男とて多侍振りお人丸忌 尾張 鳩半

狗羊用ゝ何の勘定 ・ 風来

今度こそ錦帯橋を足はさる 埼玉 六外

反すゝとさきぬ文もねいふ 信濃 八家

如方なき乳母の乳を飲む 阿波 松園

とらぬ炬燵をさき程 横濱 七浪兄

青うゝの墨うゝ遠より 東京 雪哉

河岸うゝとけ 宇松 五十八櫻醉

うゝらに長い奉行之掬刀 阿波 屹月

仁王門まて人 越後 八十六山富

月思ふ心のおもひ 遊々々々

伊豫 六十四 公 高

みはらさきよき 夢のまゝめく

長都 六十五 曉 雨

冷々々々 近々 演 底

阿波 草 笛

あんとくは 海にあかき

豊前 枕 肱

つなは 夢を 見る 時 代

下関 木 兆

暫く 雨り 遠き 古 今

素 人

あひを ねて 祝ふ 家 の 代

六十一 其 桃

ハ 夢よ 夢よ 春 夢 夢

信濃 六十五 入 亭

まづのまゝ

あゝや 松の 緑も 共の 夢

房 苑

さゝお 生れ 夢の 春

直 川

競ふ 如く 夢の 日 夢

入 亭

風 名のか 夢を 忘 夢

かつ 美

新 産の 夢の 水も 引く 夢

琢 夫

瑞 瑞の 夢を 夢を 忘 夢

花 子

扇 持て 夢を 試る 夢の 夢

栄 人

夢の 夢を 夢を 忘 夢

一 湖

足はかき富すお影朝月松
 ぞとみおつにやそ初潮
 産科の糸り角力とかされ
 目おき袖ひき何は海へ
 孝行の徳よ召され孫むあ
 掃くぬき雪の風情をうき
 口切のやうも落葉あきさ
 遠土のあけ不意に訪ふ
 こゝろゆる花や雪うに笑ひ
 うたけ催は弥生お庭

入 家
 や 子
 松 嶺
 連 城
 薬 仙
 瓢 也
 有 暇
 利 忘
 笑 波
 芳 殘

蓬萊の日月長き早の春
 茂りけり梅も柳もひと門
 かき事のせきき海や東波
 双燕や常にお寄り相扶く
 千早かの歌保ちて松お花
 厨姫の列室も暇や当道会
 おひけすなも庭や松のうね
 去盛りや種のお草あけき
 桃さくらやきこけ家の軒
 田のこり米をうきもさるけり
 おきのねもみさうのこをんそ
 ねとふ来も初うや新れき

東 枝
 松 宇
 笑 波
 二 松
 菊 盈
 守 拙
 小 波
 大 鵬
 扇 檣
 半 醉
 十 夢
 東 山

しらゆゑの重なるゝるみの節句の事
根分たるまゝに――うつゝあそぶ
大典や尉と睦とをさのさ
あゝとて舞臺のやま――あゝとて
苔もろふ一本床――ねの花
咲きほふまゝあゝとてあゝとて
百とて何のもねはあゝとて
さうとて歌うる人ね花を
初あそびや年代をまゝとて
目もあゝとてあゝとてあゝとて
しらゆゑの重なるゝるみの節句の事
あゝとてあゝとてあゝとて

蛙人
玉峰
帰童
美山
雨山
花好
猿手
花月
聚村
未秋
聴秋
晚景

あゝとてねとるゝる緑
ねの花を――あゝとてあゝとて
月花――あゝとてあゝとて
あゝとてあゝとてあゝとて
あゝとてあゝとてあゝとて
あゝとてあゝとてあゝとて
あゝとてあゝとてあゝとて
あゝとてあゝとてあゝとて
あゝとてあゝとてあゝとて
あゝとてあゝとてあゝとて
あゝとてあゝとてあゝとて
あゝとてあゝとてあゝとて

華江
臨舟
松約
あそび
桃雨
一麟
梅病
松光
方堂
東沙
耕雪
孫車

命長世の里住居
 名古佳月
 八十
 鶴
 風来
 喝牛
 和光
 蓬宮
 真月
 累影
 隨處
 曹溪
 其泉
 其朝

待来て八月に
 甲斐有無
 遠くから目立つや月の松二樹
 白溜
 年ふりて心く、氣をくく、松の花
 正風
 赤雲うさぎ賢頌縣くや赤雲うさ
 呉春
 我湖の月、子、松、石、を、赤雲うさ
 眠石
 赤雲うさぎ、松、石、を、赤雲うさ
 昔人
 長久さや、松、石、を、赤雲うさ
 一
 赤雲うさぎ、松、石、を、赤雲うさ
 常盤
 友鶴や、赤雲うさぎ、松、石、を、赤雲うさ
 七石
 赤雲うさぎ、松、石、を、赤雲うさ
 六外
 赤雲うさぎ、松、石、を、赤雲うさ
 碧湛
 赤雲うさぎ、松、石、を、赤雲うさ
 尖嶺

月園や命のほふもろけり為
中ききし名も葉子代に松の花
千代の清き挾んで梅と柳を
目くらまきや顔重ねて子代の松
表ひのききくや福寿草
庭長栄花りし葉子の夫婦松
その香りと、や添へん花人の花
緑紅白園の来りし一葉に交す
昔の庭八重長春の花咲きむ
葉の葉を先尺ふちせ君の
梅の古きと鶴の海りあり
あはれ時やあまのねをみり

花郷 蓬定 晴風 香月 千及 文邨 和光 藤蔭 義述 萩湖 席幼 畦倉

あゝかの梅の遠き甘き
一對の庭の葉子代に松の花
あはれや千代のねを子代に
あはれの特丹花陽春草に満ち
かゝる今もあまの葉の葉り
るまの戸をまてて重し二粒
杖のあはれとねの葉の葉り
あひをらつて重ねて花も
あひの葉の葉りや梅の枝
もくくぬ松や葉をまの司
思ふくくねたもくく月くら
あはれを重ね少袖や葉の葉

蕉風 文系 富貴 天真 香峯 松英 露城 春亭 八十九 六嬌 鬼城 月松

秋の何ぞもあふ代もをうぬ松 下松 櫻醉
 春や鶴の舞まづつ國の松 香川 昇雲
 是よりぬ松やふまふ枝はり 丹波 兆年
 春の壽ねるる春の卯枝哉 海部 藍文
 春の松健るる一樹はり 手前 我舟
 春の松もあふつる夫婦岩 下美 枕肱
 春の松もあふつるあり 下美 其桃

長生縣

春の何ぞもあふ代もをうぬ松 下松 壽山
 春や鶴の舞まづつ國の松 香川 竹郎
 是よりぬ松やふまふ枝はり 丹波 吐月
 春の壽ねるる春の卯枝哉 海部
 春の松健るる一樹はり 手前
 春の松もあふつる夫婦岩 下美

秋の何ぞもあふ代もをうぬ松 下松 秋稿
 春や鶴の舞まづつ國の松 香川 若柳
 是よりぬ松やふまふ枝はり 丹波 對山
 春の壽ねるる春の卯枝哉 海部 芦丈
 春の松健るる一樹はり 手前 茶香
 春の松もあふつる夫婦岩 下美 龍山
 春の松もあふつるあり 下美 陽高
 春の松もあふつるあり 下美 花沙
 春の松もあふつるあり 下美 儀一
 春の松もあふつるあり 下美 盛生
 春の松もあふつるあり 下美 雅游
 春の松もあふつるあり 下美 桂雄

文光 薰石 二甫 半水 歸水 益水 日丸 滿月 一風 有華 旭水

上田市

北佐久

通志

苦辛 翼水 環翠 驚秋 綠水 一薦 文秀 鉄袖 雅慶 愛山 治乙 千足

垣科

下之舟

あり梢をなす程衣を袖ひし
 笑ひ初は、さうさうと心
 引越し鶴や千歳を健ふらん
 庭の掃除よりと早起き
 終る衣も月夜の用をなれ
 手鑑しとて鑑もありたし
 無細工ふ案ふれうの古代振
 是うらかゝる秋田街道
 半年に餘り記の奥深く
 代々と鑑を催候や

直川 入亭 笑波 川 波 亭 川 波 亭

うらかりの何よりつけと行旅き
 雪のさくふとさう影
 おとけと鳥路と涼とお月
 蘇武を描た扇貫てり
 秋入もぬけとさう地の長い
 勸誘時とふぬ佛像
 市遷都の記念と君と笑顔
 親とさうかまておふも在
 朝ふ風の秋陰よりさうさう
 能く試きとんと極うとく

波 川 波 亭 川 波 亭 川 波 亭

玉ちり心結ふの神水引合せ
 夢にすめやうに湯女の働き
 やさふさふ武者一騎訪ふれ
 雲と切なさを一帯あふく
 細雪をまてたまかよふ雨
 かゝるふらふ義理はなぬ
 耳鳴りも高野念ふいふ山
 拾つてやふふ事書け月
 後先になつて昔念はらぬ
 乙女とて秋とてぬ船橋

亭 波 川 亭 波 川 亭 波 川 亭

大方と桔梗くふと整けたり
 多く後と懐く思ふ画行持
 おふはさう思ひは細か
 頭割とてなぬ部定
 乙女のたや道と香の深く
 秋の湖の西にれ春を云

亭 波 川 亭 波 川

相生の松は根千湧く清き哉
 一門を榮えて女夫松は花
 穂晴まて蘭の香る一巖の面
 松竹千代のをあり長久の庭
 我より千代のをあり一梅柳
 みより濃く松を根に結ぶ本松
 色よりぬれ松や八千代の友は松
 千代のあり夫婦の松やあやう
 高砂や男松め雲の君縁
 赤ひの満る春やうやう
 風生のえんも今や長久の庭
 お生れ松を老門長久の庭

源氏

下源氏

上源氏

柳塘 碧水 梧友 晚雪 米水 小宇 如佛 魯山 梅屋 其梅 雪人 巫山

松の花鶴の巣花の樹や高し
 赤壽松ふ翁健なり一松
 白鹿や赤寿の翁は松の友
 うき門や松も深雪の友は松
 もの壽松あきり長うれ梅柳
 松の祝もくゆく松の庭
 松の葉も一扇の松もや松の花
 延赤松何れも松は松の友
 赤松も一扇の松もや松の花
 白梅や松も一松は松の友
 天晴の赤松も一松は松の友
 咲きも一松は松の友

玉川

四賀

芒池 青萍 一郷 楊牛 茶々 二朝 泉陽 鉄笛 晴月 梅寮 菊明

病ひの重なる屋や松の花 由良 朗雪
 夢のふりて涼しい風起る 五 大哉
 七五に張りて女夫の松や風雪 豊田 南泉
 祝事の多き長者や夢の花 湖南 逸梅
 鶴の地や松ふ少や松の雪 湖南 如雪
 幸ふや父母健やうや花の祝 湖南 松雪
 お生の松のふりや君の春 湖南 如洋
 梅長者の松の毛衣ふりや 湖南 閑山
 雪の山や松の雪 中西 金松
 雪の山や松の雪 中西 雪友
 け秋のふりて雪 中西 一哉

菊の花は長生の一家の如 永明 瑞雪
 菊の花は長生の一家の如 永明 田里
 菊の花は長生の一家の如 永明 洞月
 菊の花は長生の一家の如 永明 竹南
 菊の花は長生の一家の如 永明 花山
 菊の花は長生の一家の如 永明 仙友
 菊の花は長生の一家の如 永明 佳山
 菊の花は長生の一家の如 永明 湖月
 菊の花は長生の一家の如 永明 龍骨
 菊の花は長生の一家の如 永明 菊風
 菊の花は長生の一家の如 永明 華村
 菊の花は長生の一家の如 永明 龜水

逢来の松も一葉度——夫婦松
 おもひもてふもぬえまや梅の
 おもひの松も成りてはふ葉
 うちをやもせふ年ならふまう——
 松おふ屋との松や初めは
 来も代も終り来え——と松の
 花ひの重なり——門や月と梅
 二本の松影もあり菊畑
 菊も多事、姫も甘きや今来
 来は詩も古き家あや来るは
 緑毛の影やあふ井の春の
 来へや夫婦松も今日月

松 嶺
 一 湖
 一 葉
 蓼 雲
 竹 雀
 啄 月
 風 月
 桃 海
 信 翠
 千 煉
 仙 杏
 来 累

平野

秋晴や松の夫婦は健なり
 夫婦を老い美——や松の
 早稲も晚稲も青き葉に実るは
 此里も——不老の仙や松の
 来あのもや一門の来——
 おもひ松も花も——風も
 松も花も——風も——
 初めは松も——むらや番松
 万も——実もかぬまう武
 来を松も——様も——
 来の香や不老の飛波も友は
 松の来も——来も——

三谷

八界坊
 代 家
 入 家
 古 狂
 蘇 水
 耕 坡
 耕 山
 琴 我
 や 子
 有 所
 う ね
 来 山

田植貝とく七能 龍 うち申
 秋のつとまきく 葉の力や今逢ふ
 秋久活けて 瑞雲あふく 一層
 南山のあきふあきなや 秋久あつ
 葉の香や 三階松の 冠木門
 菊種も 秋影 桜のや 垣隣り
 葉の香や 一つ 對をうけ 解

牧跡 秋窓 葉仙 連城 牧人 瓢也 入亭

夏まきや 七七能 やーをーと
 葉の香や 長生 揃ふ 草の家
 ぬくーとーの 長生を 秋久はど
 ちりり 香も お生の 菊の花

家族 八十吉 芳殘 幸 けさ貞

うちうちの あきく 秋を 五代は
 うねのうちの あきく や 葉の香
 ちりり 葉の香 長生 菊の花
 菊園や 根分け づれも 長生を
 ちりり 長生 づれも 長生を
 秋久 ちりり 葉の香 葉の香
 秋久 ちりり 葉の香 葉の香

一夫 ちりり ちりり ちりり 直川

文音所

信玄諏訪郡岡谷

荒井直川

東京橋加賀町
波屋調製

三十一

